

令和2・3年度 全校研究主題

新学習指導要領に対応した授業づくり

～幼児児童生徒が主体的に学ぶ姿を目指して～

1 主題設定の理由

平成30・令和元年度の研究では、各学部・分教室の課題に合わせた学部テーマを設定し、授業改善や個別の事例検討等において幼児児童生徒に合った支援方法を共有し、それぞれで成果を得ることができた。

令和2年度からの研究については、教育の場が2校舎3分教室と分かれ、4障がいを対象としていることも要因となり、「学部研究」の形式を継続・発展させ、その中で日々の授業実践や新学習指導要領に関する研修・実践を行いたい等の声が上がった。

以上のことから、全体の研究主題を「新学習指導要領に対応した授業づくり」とし、新学習指導要領について学びを深めるとともに、授業づくりにおいては、幼児児童生徒の「主体的に学ぶ姿」を導き出すことを目指すこととした。

また副主題については、令和元年度の各グループ研究のまとめで、幼児児童生徒について「主体的な」「主体性」等が言及されており、教育の場や教育課程が様々な本校ではあるが、幼児児童生徒の「主体的に学ぶ姿」を「目指す姿」として共有していきたいと考えた。

2 研究目標

- (1) 新学習指導要領について、教職員が理解を深め、授業に反映する。
- (2) 各学部・分教室で幼児児童生徒が「主体的に学ぶ姿」の捉えを明確化し、導き出す授業づくりを行う。

3 研究期間

2年間

4 研究組織・グループテーマ

組織	グループテーマ
幼稚部（聴覚）	幼稚園教育要領に基づく保育 ～目指す10の姿を育むために～
小学部（聴覚・肢体）	主体的に学び深める授業づくり ～障がいのある児童における道徳の時間の指導を通して～
中学部（聴覚・肢体・病弱・知的）	生徒自らが「関わり、考え、表現する」総合的な学習の時間
高等部（肢体・病弱・知的）	学びに向かう力を育む支援について ～高等部としての体系的な取り組み～
山目小学部 なのはな（知的）	新学習指導要領に対応した体育の授業づくり ～児童が主体的に学ぶ姿を目指して～
山目小学部 わかば・山目中学部（肢体・病弱・知的）	集団学習を生かした自立活動の充実
あすなろ分教室（肢体・病弱）	人との関わりを広げる授業づくり ～アセスメントチェックリストを活用した授業改善～
千厩小学部・中学部（肢体・病弱・知的）	キャリア教育の視点を取り入れた授業づくり ～小学部から中学部の系統的な指導を目指して～

5 研究実践（8グループ 別紙参照）

6 まとめ

(1) 成果

4障がい8グループが、一つのテーマに多様な視点から取り組むことは、障がいや教育課程が異なっても参考になるものであり、専門性を高めながら主題に迫ることができた。

意見やまとめの一部を抜粋すると以下の通りである。

- 幼稚部の「目指す 10 の姿」は障がいのある児童生徒にとっては共通するもので参考になった
 - 道徳の内容精選や授業展開の工夫や言語に対する認識や理解が十分でない児童生徒に対する考え方の参考になった
 - 表出行動の読み取りが難しい児童生徒を複数の目で実態把握すると小さな変化を見落とさない
 - キャリア教育等、学部や教育課程毎に系統的に指導内容や評価を一覧表にすることで児童生徒の学びを深められる
- 加えて2年目の授業改善により主体的に学ぶ姿を引き出すことができた。

(2) 課題

感染症の状況により、指導計画の変更や延期、行動が制限される場合が多く、他学部職員が気軽に授業を見合うことすらはばかれる2年間であった。また、感染症対策と働き方改革の面から全職員が一堂に会することを行わなかったため、全職員が一度も集まらずに全校研究と言えるのかという声もあった。さらに、授業を見ないことにはイメージが湧かない、配信で見ることにはできないかとの要望もあった。GIGA スクール構想の前倒しで、ネットワーク環境が改善し、難しいことではなくなってきている。研究の在り方や進め方の岐路に立たされていることを実感した。

感染症対策と働き方改革の面から、全体で確認したい事柄は、オンライン職員会議やグループの研究部員が確実に伝達し、研修会や研究授業はグループで柔軟に対応できるように心がけた2年間の研究であった。グループで課題に向き合い、話し合った成果を来年度以降の授業づくりに生かすことを期待したい。